

第5章 活用例（アナログ設定）

5

この章では、

本装置につないだアナログ機器を利用する方法を説明します。

スタンバイモードで使用する	349
アナログ機器を利用するにあたって	350
内線通話・内線転送機能を使う	351
内線通話をする	351
外からかかってきた電話をもう一方のアナログポートに転送する	351
登録した番号への発信を規制する	353
識別着信機能を使う	354
相手電話番号識別機能を使う（優先着信機能）	355
着信電話番号識別機能を使う	358
疑似迷惑電話お断りを使う	360
疑似キャッチホンを使う	362
疑似着信転送を使う	364
疑似三者通話を使う	366
疑似通信中転送を使う	368
フレックスホンを使う	370
フレックスホンのいろいろな機能を使う	371
フレックスホン自動切り替え機能を使う	376
INS ボイスワープを利用する	377
発信者番号表示（ナンバー・ディスプレイ）を使う	380
発信者番号表示（キャッチホン・ディスプレイ）を使う	382

発信者番号通知の設定を変更する	385
発信者電話番号を選択する	386
無鳴動FAX 受信機能を使う	387
i・ナンバー着信機能を使う	388
サブアドレスを設定する	390
ダイヤルイン/グローバル着信機能を使う	391
ダイヤルイン/グローバル着信機能を設定する	392
モデムダイヤルイン機能を使う	393
モデムダイヤルイン機能を設定する(その1: 自局電話番号を送出する)	393
モデムダイヤルイン機能を設定する(その2: 任意の番号を送出する)	396
アナログダイヤルイン機能を使う	399
アナログダイヤルイン機能を設定する(その1: 自局電話番号を送出する)	399
アナログダイヤルイン機能を設定する(その2: 任意の番号を送出する)	401
リバースパルス送出機能を使う	403
電話機を利用して設定を変更する	404
時計を設定する	405
IPアドレスを設定する	406
アナログ機能を設定する	407
着信転送先を設定する	409
TELメールを設定する	410
メールチェックを実行する	410
メール着信を消去する	411
留守状態を設定する	411
留守モードを設定する	412
外線から設定を変更する(無課金)	413
設定変更用暗証番号を設定する	414
外線からアナログ機能の設定を変更する	415
外線から着信転送先を設定する	416
外線からTELメールを設定する	417
外線から留守状態を設定する	418
留守状態を確認する(無課金)	419

スタンバイモードで使用する

データ通信を行わない場合などは、必要最小限の部分だけを動作させ、本装置の消費電力を抑えることができます。「スタンバイモード」では、アナログ機器だけが使用できます。

こんな事に気をつけて

「スタンバイモード」にすると、10BASE-Tポートにつないだ機器どうして通信ができなくなります。

スタンバイモードにする

「通常モード」と「スタンバイモード」の切り替えは、アナログポートにつないだアナログ機器で行います。

1. 受話器を上げ、ツーンという音が聞こえることを確認します。

こんな事に気をつけて


利用する回線に「専用線」を設定している場合は、「通常モード」と「スタンバイモード」の切り替えはできません。

2. **✳** **5** をダイヤルします。
3. ビジートーン (プープープーという話中の音) が聞こえます。
4. 受話器を置きます。

スタンバイモードで動作中は、本装置のPOWERランプが緑色で点滅 (点灯約2.5秒、消灯約0.5秒) します。POWERランプ以外は消灯します。

通常モードにする

1. 受話器を上げ、ツーンという音が聞こえることを確認します。
2. **✳** **6** をダイヤルします。
3. ビジートーン (プープープーという話中の音) が聞こえます。
4. 受話器を置きます。

 ヒント

すぐにモードを変更するには

本装置出荷時には番号をダイヤルして **✳** を1回押すと、すぐにモードを変更するようになっています。「#機能ボタン使用」の設定はアナログ設定の「アナログ共通情報」で設定します。

アナログ機器を利用するにあたって

アナログ機器は、本装置で設定を行うとさらに便利な使い方ができます。電話機をつなぐ場合は、アナログポートにモジュラを差し込むだけで使用できます。

こんな事に気をつけて

- 電話機を1台だけつなぐ場合は、TEL1ポートにつないでください。また、TEL2ポートを使用しないように設定を変更してください（アナログ設定の「アナログポート2情報」で「接続機器」を「なし」に設定してください）。
- 本装置を専用線で利用している場合は、アナログ機器は使うことができません（電話機を使用してIPアドレスの設定は行えます）。
- ナンバー・ディスプレイ対応アナログ機器の機種によっては、発信者番号が正常に表示されない場合があります。

電話の受話音量を調節する

ここでは、アナログポートのTELポート1につないだ電話機の受話音量を設定する場合を例に説明します。

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログポート1情報」をクリックします。「アナログポート1情報」ページが表示されます。
2. [装置の動作に関連する設定項目]で以下の項目を指定します。
 - 受話音量 「小」「中」、または「大」を選択する
3. [更新] ボタンをクリックします。
4. [設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

ヒント

すぐに発信するには

本装置出荷時には、番号をダイヤルして **#** を1回押すと、すぐに発信するようになっています。「#機能ボタン使用」の設定は、アナログ設定の「アナログ共通情報」ページで設定します。

LCR機能等の付いた電話機を使うときには



LCR機能を備えた電話機で相手先とうまくつながらない場合は、アナログ設定の「アナログ共通情報」の順に選択し、「ダイヤル桁間タイマ」の時間を長め（10秒程度）に設定してください。

電話機のダイヤルで操作する手順の一覧を付録に載せています。

☛ 参照 「ダイヤル操作早見表」(P.672)

内線通話・内線転送機能を使う



内線通話をする

1. 受話器を上げ、ツーという音が聞こえることを確認します。
2.   と押すと、呼び出し音が鳴ります。
3. 受話器を置いて、通話を終了します。

外からかかってきた電話をもう一方のアナログポートに転送する

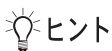
内線転送には、転送する側の電話に相手が出たあとに転送する場合と相手が応答する前にそのまま転送する場合の2種類があります。

他のアナログポートが応答したあとに転送する

1. 通話中に受話器のフックを押し (以降フッキングと呼びます)、電話を保留にします。第2ダイヤルトーン (プッププツという音) が聞こえてきます。
2.   と押して、もう一方のアナログポートにつないだ電話機を呼び出します。



フッキングを行うと、保留中の相手と再度通話できます。



ヒント

フッキングとは

受話器のフックを押してすぐに離すと、通話を保留できます。これを「フッキング」と言います (フックを長く押しつづけると通話が切れてしまいます)。アナログ設定の「アナログ共通情報」の「フッキング時間」で、フックを押してから通話が切れるまでの時間を変えられます。


電話機にフックボタン、キャッチボタン、またはフラッシュボタンがある場合は、このボタンを使って通話を保留にします。

3. 相手が出たら、転送することを伝えます。
4. 受話器を置いて、通話を転送します。
もう一方のアナログポートで、保留されていた相手と通話できるようになります。

こんな事に気をつけて

もう一方のアナログポートが通話中の場合は、この機能を使うことができません。

他のアナログポートが応答する前に転送する

1. 通話中に受話器のフックを押し、電話を保留にします。
第2ダイヤルトーン（プッププツという音）が聞こえてきます。
2.  と押し、もう一方のアナログポートにつないだ電話機を呼び出します。



フッキングを行うと、保留中の相手と再度通話できます。

3. 受話器を置くと、通話が転送されます。

もう一方のアナログポートで受話器を取ると、保留されていた相手と通話できるようになります。

こんな事に気をつけて

- もう一方のアナログポートが通話中の場合は、この機能を使うことができません。
 - 受話器を置いたあとは、外線電話に戻ることができません。
-


登録した番号への発信を規制する

あらかじめ登録しておいた局番や電話番号への外線発信を規制します。規制した局番の電話番号でも、特定相手だけを外線発信を許可することもできます。また、ポートごとに発信を抑止する番号、発信を許可する番号を設定できます。

外線発信規制番号を設定する

ここでは、アナログポート1から局番「06」への発信を抑止するが、「06-2222-4444」への発信だけを許可する場合を例に説明します。

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログポート1情報」をクリックします。「アナログポート1情報」ページが表示されます。
2. [発信規制情報設定]で「外線発信を抑止する局番または電話番号」の欄の[追加]ボタンをクリックします。「発信規制情報(アナログポート1)」ページが表示されます。
3. [外線発信抑止番号設定]で以下の項目を指定します。
 - 抑止番号 06



[外線発信抑止番号設定]

抑止番号 06

4. [更新]ボタンをクリックします。「アナログポート1情報」ページに戻ります。
5. [発信規制情報設定]で「外線発信を許可する局番または電話番号」の欄の[追加]ボタンをクリックします。「発信規制情報(アナログポート1)」ページが表示されます。
6. [外線発信許可番号設定]で以下の項目を指定します。
 - 許可番号 06-2222-4444



[外線発信許可番号設定]

許可番号 06-2222-4444

7. [更新]ボタンをクリックします。「アナログポート1情報」ページに戻ります。
8. [更新]ボタンをクリックします。
9. [設定反映]ボタンをクリックします。設定した内容が有効になります。

識別着信機能を使う

本装置には、以下のような識別着信機能があります。

- **相手電話番号識別**：相手先電話番号（10件まで）を登録しておけば、登録した番号からの電話がかかってきたときに、呼び出し音を変えたり、指定のアナログポートだけを呼び出すことができます。また、相手ごとに着信条件を設定したり、着信拒否を設定できます。公衆電話からかけてきた電話や、発信者番号を通知してこない電話に対しても着信拒否などの動作を設定できます。

動作モード	説明
両ポート着信	着信時、両方のポートに接続された電話機の着信音が鳴ります。
ポート1のみ着信 ポート2のみ着信	着信時、指定したポートに接続された電話機だけ、着信音が鳴ります。
ポート1優先 ポート2優先	着信時、指定したポートに接続された電話機を優先して着信音が鳴ります。
着信拒否	着信しません。

- **着信電話番号識別**：着信電話番号に応じて、呼び出し音を変えることができます。

こんな事に気をつけて

相手電話番号識別機能を利用する際は、NTTとの「INSナンバー・ディスプレイ」契約が必要です。ただし、相手の方がINSネット64から発信者番号を通知して電話をかけてきた場合は、未契約でも利用できます。

ヒント

リング音（呼び出し音）で区別する

本装置では、アナログ機器への着信音（外線リング音、内線リング音、識別リング音）を3種類のリング音（リング音1～3）で区別することができます。

リング音は、お好みに合わせて選択できます。ご購入時は以下のように設定されています。

- ・ 外線リング音 リーン・リーン（リング音1）
- ・ 内線リング音 リンリン・リンリン（リング音2）
- ・ 識別リング音 リンリンリン・リンリンリン（リング音3）

相手電話番号識別機能を使う（優先着信機能）

ここでは、以下のような場合を例に説明します。

- 「03-5555-5555」からの電話
ポート1だけを識別リング音（リング音3）で呼び出す。このときポート1を5回以上呼び出して受話器を取らない場合は、ポート2も識別リング音（リング音3）で呼び出す。
- 「03-5555-5555」以外からかかってきた電話
ポート2だけを外線リング音（リング音1）で呼び出す。

外線リング音を設定する

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログ共通情報」をクリックします。
「アナログ共通情報」ページが表示されます。
2. [装置の動作に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。
 - 外線リング音 リング音1

[装置の動作に関連する設定項目]	
設定変更用暗証番号	<input type="text"/>
留守状態設定	<input checked="" type="radio"/> 在宅 <input type="radio"/> 留守
留守確認用番号	<input type="text"/>
ダイヤル桁間タイム	5秒 ▾
フッキング時間	<input type="radio"/> 早い <input checked="" type="radio"/> 標準 <input type="radio"/> 遅い
#機能ボタン使用	<input checked="" type="radio"/> する(1回入力) <input type="radio"/> する(2回入力) <input type="radio"/> ししない
外線リング音	リング音1 ▾
内線リング音	リング音2 ▾

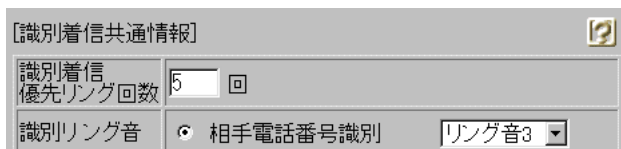
3. [更新] ボタンをクリックします。
4. [設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

識別情報を設定する

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「識別着信情報」をクリックします。
「識別着信情報」ページが表示されます。

2. [識別着信共通情報] で以下の項目を指定します。

- 識別着信優先リング回数 5
- 識別リング音 相手電話番号識別
リング音 3

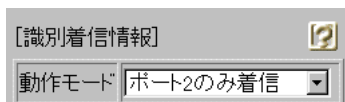


3. [識別着信情報一覧] でデフォルト定義のテーブルの欄の [修正] ボタンをクリックします。

「識別着信情報設定」ページが表示されます。

4. [識別着信情報] で以下の項目を指定します。

- 動作モード ポート2のみ着信



5. [更新] ボタンをクリックします。

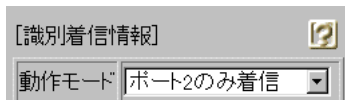
「識別着信情報」ページに戻ります。

6. [識別着信情報一覧] で公衆電話着信のテーブルの欄の [修正] ボタンをクリックします。

「識別着信情報設定」ページが表示されます。

7. [識別着信情報] で以下の項目を指定します。

- 動作モード ポート2のみ着信



8. [更新] ボタンをクリックします。

「識別着信情報」ページに戻ります。

9. [識別着信情報一覧] で発信者番号非通知着信のテーブルの欄の [修正] ボタンをクリックします。

「識別着信情報設定」ページが表示されます。

着信電話番号識別機能を使う

ここでは、以下のような場合を例に説明します。

- 契約者回線番号（鳴り分け番号1）で着信したときは両ポートに着信し、リング音1で呼び出す。
- 追加番号（鳴り分け番号2）で着信したときはアナログポート1だけに着信し、リング音2で呼び出す。
- 追加番号（鳴り分け番号3）で着信したときはアナログポート2だけに着信し、リング音3で呼び出す。

こんな事に気をつけて

利用する際は、NTTとの「i・ナンバーサービス」の契約が必要です。

i・ナンバーを設定する

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログ共通情報」をクリックします。
「アナログ共通情報」ページが表示されます。
2. [網契約に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。

• i・ナンバー	使用する
[i・ナンバー情報1]	
動作モード	両ポート着信
[i・ナンバー情報2]	
動作モード	ポート1のみ着信
[i・ナンバー情報3]	
動作モード	ポート2のみ着信

i・ナンバー	<input type="radio"/> 使用しない
	<input checked="" type="radio"/> 使用する
	[i・ナンバー情報1]
	鳴り分け番号1 <input type="text"/>
	動作モード <input type="text" value="両ポート着信"/>
	[i・ナンバー情報2]
	鳴り分け番号2 <input type="text"/>
	動作モード <input type="text" value="ポート1のみ着信"/>
	[i・ナンバー情報3]
鳴り分け番号3 <input type="text"/>	
動作モード <input type="text" value="ポート2のみ着信"/>	

3. [更新] ボタンをクリックします。
4. [設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

識別情報を設定する

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「識別着信情報」をクリックします。
「識別着信情報」ページが表示されます。
2. [識別着信共通情報] で以下の項目を指定します。
 - 識別リング音 着信電話番号識別
 鳴り分け電話番号 1 リング音 1
 鳴り分け電話番号 2 リング音 2
 鳴り分け電話番号 3 リング音 3

[識別着信共通情報]	
識別着信優先リング回数	5 回
● 相手電話番号識別 リング音3	
● 着信電話番号識別	
契約者番号	リング音1
ポート1のダイヤルイン番号	リング音3
ポート2のダイヤルイン番号	リング音3
鳴り分け番号1	リング音1
鳴り分け番号2	リング音2
鳴り分け番号3	リング音3

3. [更新] ボタンをクリックします。
4. [設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

5

疑似迷惑電話お断りを使う

迷惑電話をかからないように設定することができます。かけてほしくない相手の電話番号を登録しておき、その相手電話番号から電話がかかってきたときに、着信しないようにします。また、かかってきた電話が迷惑電話だった場合などに、通話中にダイヤル操作で相手の電話番号を登録し、以降、その電話番号からの電話は着信しないように設定できます。

こんな事に気をつけて

利用する際は、NTTとの「INSナンバー・ディスプレイ」契約が必要です。ただし、相手の方がINSネット64から発信者番号を通知して電話をかけてきた場合は、未契約でも利用できます。

疑似迷惑電話お断りを設定する

ここでは、以下のような場合を例に説明します。

- 「03-9999-9999」からの電話を着信拒否する

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「識別着信情報」をクリックします。

「識別着信情報」ページが表示されます。

2. [識別着信情報一覧] で [追加] ボタンをクリックします。

「識別着信情報設定」ページが表示されます。

3. [識別着信情報] で以下の項目を指定します。

- 識別定義名 meiwaku (他の識別定義名と重複しない任意の定義名を指定します。)
- 相手電話番号 03-9999-9999
- 動作モード 着信拒否

[識別着信情報]	
識別定義名	meiwaku
相手電話番号	03-9999-9999
相手サブアドレス	
動作モード	着信拒否

4. [更新] ボタンをクリックします。

「識別着信情報」ページに戻ります。

5. [更新] ボタンをクリックします。

6. [設定反映] ボタンをクリックします。

設定した内容が有効になります。

疑似迷惑電話お断りに登録する

通話中の相手電話番号を疑似迷惑電話お断りの対象として登録します。

こんな事に気をつけて

- 外線着信で通話中の相手だけ登録可能です。外線発信して通話した相手を登録することはできません。また、通話中に相手から切断され、ビジートーン送出中の状態では登録できません。
- 識別着信情報にすでに10個の相手を設定してある場合は、この機能は利用できません。
- 相手の方が発信者番号を通知しない契約を結んでいる、または通知しない設定をしている場合は、登録することはできません。

1. 迷惑電話との通話中に、 と押します。



ダイヤル時、識別着信情報には、以下の内容が登録されます。

- 識別定義名 : meiwaku0 ~ meiwaku9（登録済みの定義名は使用しません）
- 相手電話番号 : 通話相手の電話番号
- 相手サブアドレス : 通話相手のサブアドレス
- 動作モード : 着信拒否

2. 受話器を置きます。

以降、その相手からの電話は着信しません。

疑似キャッチホンを使う

外線で話をしているときに別の人から電話がかかってきた場合、通話中の方を保留にして、かけてきた方とお話することができます。フレックスホンサービスに含まれる「INSキャッチホン」と同様の機能ですが、疑似キャッチホンではNTTとの契約は必要ありません。

こんな事に気をつけて

- データ通信中およびもう一方のアナログポート使用中は電話をかけてきた側で話し中になるので、この機能を利用できません。
- この機能を使用中は、もう一方のアナログポートは使用できません。また、データ通信も利用できません。



「接続機器」で「電話」および「FAX (キャッチホン着信)」以外を指定した場合は、通信を妨げないようにするため、疑似キャッチホンは利用できません。

疑似キャッチホン機能を設定する

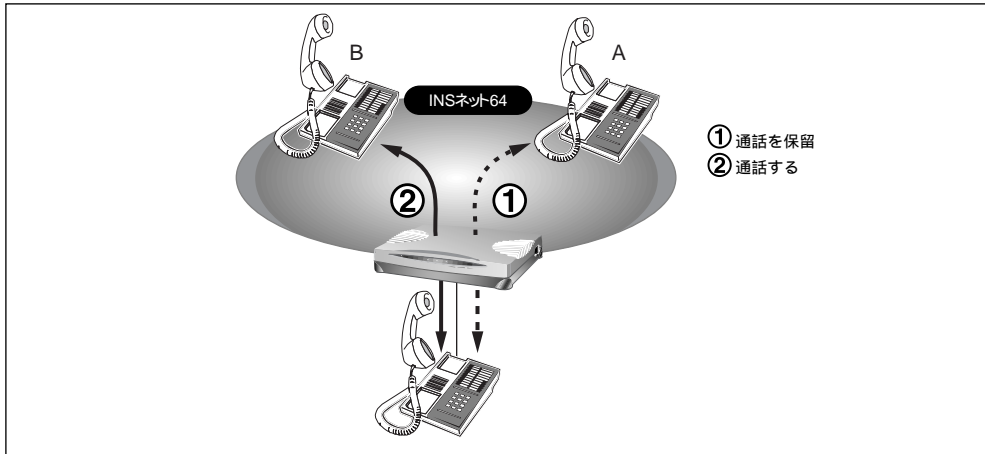
ここでは、電話機をアナログポート1につないだ場合を例に説明します。

1. 詳細設定メニューの「アナログ設定」で「アナログポート1情報」をクリックします。「アナログポート1情報」ページが表示されます。
2. [網契約に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。
 - キャッチホン 疑似キャッチホン

[網契約に関連する設定項目]	
ダイヤルイン番号	<input type="text"/>
グローバル着信	<input checked="" type="radio"/> する <input type="radio"/> しない
発信者番号通知	<input checked="" type="radio"/> する <input type="radio"/> しない <input type="radio"/> 網契約に従う
キャッチホン	<input type="radio"/> キャッチホン <input type="radio"/> 使用しない <input checked="" type="radio"/> 疑似キャッチホン

3. [更新] ボタンをクリックします。
4. [設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

疑似キャッチホンを使う



1. 相手Aとの通話中に相手Bから電話がかかってくると、受話器から通話中着信音が流れてきます。



- ・通話中着信音を送出する時間を指定しておくことができます。「アナログポート1 / 2 情報」(P.332)を参照してください。
- ・通話中着信音は、識別着信機能で相手に登録してあるリング音に対応して以下の表のようになります。
- ・通話中着信音は、「識別着信共通情報」の「識別リング音」の設定により異なります。「識別リング音」を「相手電話番号識別」に設定した場合、識別着信情報一覧で追加定義した相手からの着信は「プブッ」、それ以外の着信は「プッ」となります。「識別リング音」を「着信電話番号識別」に設定した場合、着信電話番号ごとに設定したリング音に対応して以下の表のようになります。

リング音設定	通話中着信
リング音1	プブッ
リング音2	プッ
リング音3	プブッ

2. フッキングをします。
相手Bと通話できます。相手Aとの通話は保留になります。
3. 相手Aと通話するときは、もう一度フッキングをします。
相手Bとの通話が保留になり、相手Aと通話ができます。
4. 通話中の相手との通話を終了するときは、受話器を置きます。
リング音が鳴ります。
5. 受話器を取ります。
保留にしていた相手と通話できます。

疑似着信転送を使う

かかってきた電話が、あらかじめ設定しておいた着信転送の条件に一致すると、本装置は電話を転送します。フレックスホンサービスに含まれる「着信転送」と同様の機能ですが、疑似着信転送ではNTTとの契約は必要ありません。

こんな事に気をつけて

データ通信中およびアナログポート使用中は、電話をかけてきた側で話し中になるので、この機能を利用できません。

疑似着信転送機能を設定する

ここでは、以下のような場合を例に説明します。

- 契約者番号にかかってきた電話を「03-6666-6666」に転送する

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログ共通情報」をクリックします。

「アナログ共通情報」ページが表示されます。

2. [網契約に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。

- 着信転送
契約者番号の転送先
- 疑似着信転送
03-6666-6666

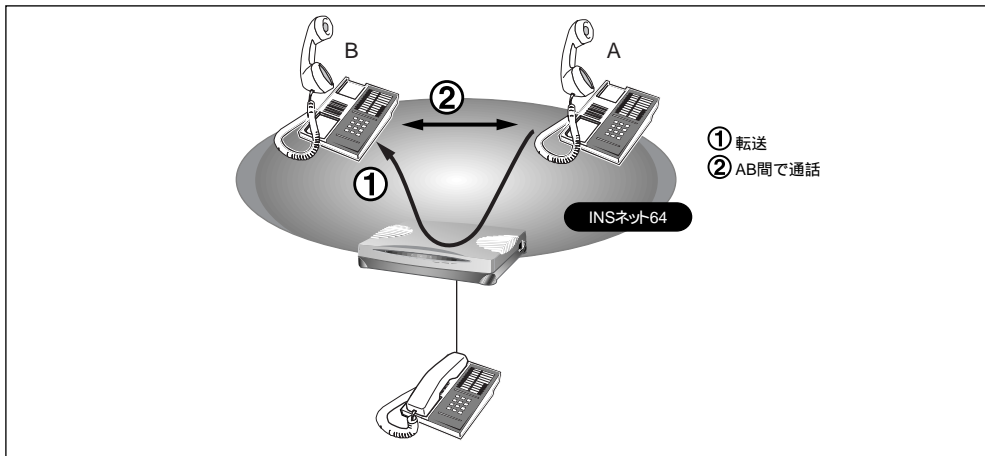
着信転送	<input type="radio"/> 使用しない	
	<input type="radio"/> 着信転送	
	<input checked="" type="radio"/> 疑似着信転送	
	契約者番号の転送先	03-6666-6666
	ポート1のダイヤルインの転送先	
	ポート2のダイヤルインの転送先	
	鳴り分け番号1の転送先	
	鳴り分け番号2の転送先	
	鳴り分け番号3の転送先	
※グローバル着信ありの場合の転送先は契約者番号の転送先に設定してください		
	転送元トーキ	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし
	転送トーキ	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし
※疑似着信転送を使用する場合、転送元／転送トーキの指定は無効になります		

3. [更新] ボタンをクリックします。

4. [設定反映] ボタンをクリックします。

設定した内容が有効になります。

疑似着信転送を使う



- 本装置に電話機をつないでいなくても、疑似着信転送を利用できます。
- 着信相手から本装置までの電話料金は着信相手に課金され、本装置から転送先までの電話料金は、本装置側に課金されます。

疑似三者通話を使う

外線で話をしているときに、通話中の方を保留にして、別の人に電話をかけて通話することができます。また、3人で同時に通話することもできます。

こんな事に気をつけて

- データ通信中およびもう一方のアナログポート使用中は電話をかけてきた側で話し中になるので、この機能を利用できません。
- この機能を使用中は、もう一方のアナログポートは使用できません。また、データ通信も利用できません。

疑似三者通話機能を設定する

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログ共通情報」をクリックします。「アナログ共通情報」ページが表示されます。
2. [網契約に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。
 - フレックスホン 擬似フレックスホン
三者通話 使用する

[網契約に関連する設定項目]

電話番号

フレックスホン

フレックスホン

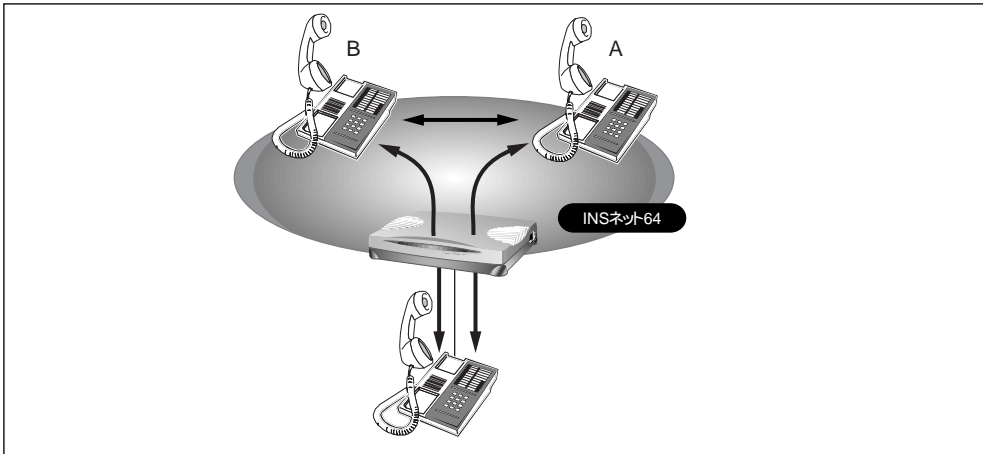
擬似フレックスホン

三者通話 使用しない 使用する

通信中転送 使用しない 使用する

3. [更新] ボタンをクリックします。
4. [設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

疑似三者通話を使う



1. 相手Aとの通話中にフッキングをします。
通話が保留になり、第2ダイヤルトーン（ブップブツという音）が聞こえてきます。
2. 相手Bへダイヤルします。
呼び出し音（プルルルという音）が聞こえます。相手Aには保留音が聞こえています。
3. 相手Bがでたら、通話を始めます。
この間、相手Aには保留音が聞こえています。
4. ダブルフックをします。
「自分+相手A+相手B」の三者で同時通話ができます（ミキシングモード）。
5. もう一度、ダブルフックをします。
相手Aとの通話は保留され、相手Bとの通話状態になります（切り替えモード）。
6. 通話中の相手との通話を終了するときは、受話器を置きます。
リング音が鳴ります。
7. 受話器を取ります。
保留中の相手と通話できます。

疑似通信中転送を使う

外線通話中の電話を、別の相手に転送することができます。

こんな事に気をつけて

- データ通信中およびもう一方のアナログポート使用中は電話をかけてきた側で話し中になるので、この機能を利用できません。
- この機能を使用中は、アナログポートは使用できません。また、データ通信も利用できません。

疑似通信中転送を設定する

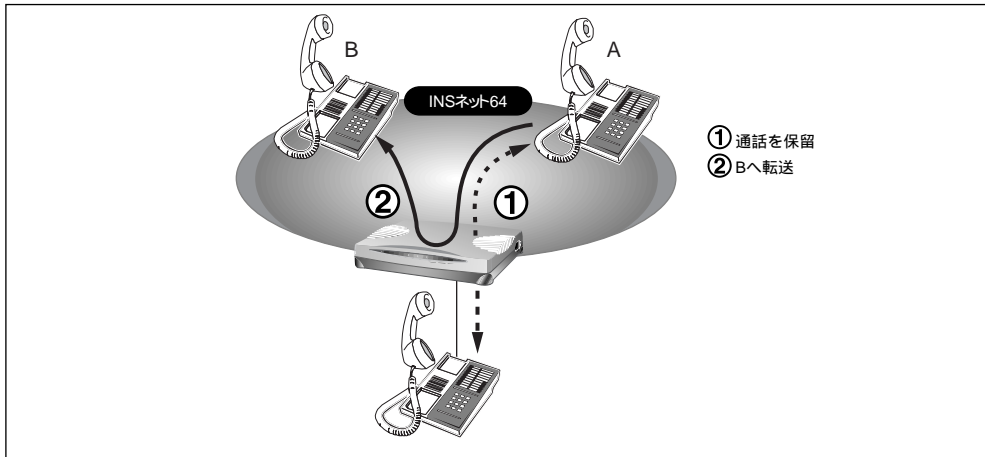
- 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログ共通情報」をクリックします。「アナログ共通情報」ページが表示されます。
- [網契約に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。
 - フレックスホン通信中転送 疑似フレックスホン 使用する

[網契約に関連する設定項目]						
電話番号	<input type="text"/>					
フレックスホン	<input type="radio"/> フレックスホン <input checked="" type="radio"/> 疑似フレックスホン					
	<table border="1"> <tr> <td>三者通話</td> <td><input checked="" type="radio"/> 使用しない</td> <td><input type="radio"/> 使用する</td> </tr> <tr> <td>通信中転送</td> <td><input type="radio"/> 使用しない</td> <td><input checked="" type="radio"/> 使用する</td> </tr> </table>	三者通話	<input checked="" type="radio"/> 使用しない	<input type="radio"/> 使用する	通信中転送	<input type="radio"/> 使用しない
三者通話	<input checked="" type="radio"/> 使用しない	<input type="radio"/> 使用する				
通信中転送	<input type="radio"/> 使用しない	<input checked="" type="radio"/> 使用する				

- [更新] ボタンをクリックします。
- [設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

疑似通信中転送を使う

「疑似通信中転送」機能を使って、通話中の電話を別の相手に転送できます。



1. 相手Aからの通話中にフッキングをします。
通話が保留になり、第2ダイヤルトーン（プッププツという音）が聞こえてきます。
2. 相手Bへダイヤルします。
呼び出し音（プルルルという音）が聞こえます。相手Aには、保留音が聞こえています。
3. 相手Bがでたら、転送中の電話があることを伝えます。
この間、相手Aには保留音が聞こえています。
4. いったんフッキングをして、すぐに受話器を置きます。
相手Aと相手Bとで通話ができるようになります。

💡 ヒント

疑似通信中転送したときの通話料はどのようになるの？

疑似キャッチホンおよび疑似三者通話から、疑似通信中転送を行った場合、以下のようにそれぞれ発信者に課金されます。

	最初の通話 (相手A)	2番目の通話 (相手B)	疑似通信中 転送	課金 対象
疑似キャッチホンの場合	Aから 自分から	Bから Bから	できる できる	A、B 自分、B
疑似三者通話の場合	Aから 自分から	自分から 自分から	できる できる	A、自分 自分、自分

フレックスホンを使う

フレックスホンはNTTが提供するサービスで、「キャッチホン」「三者通話」「通信中転送」「着信転送」の4つがあります。必要な機能だけを選んで契約できます。

着信転送の設定を行う

ここでは、「着信転送」について以下の場合を例に説明します。

- 「着信転送」を使う
- 「転送元トーキ」「転送トーキ」ともに「あり」を選択する
- 契約者番号にかかってきた電話を「03-6666-6666」に転送する

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログ共通情報」をクリックします。

「アナログ共通情報」ページが表示されます。

2. [網契約に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。

- | | |
|-----------|--------------|
| • 着信転送 | 着信転送 |
| 契約者番号の転送先 | 03-6666-6666 |
| 転送元トーキ | あり |
| 転送トーキ | あり |

着信転送	<input type="radio"/> 使用しない	
	<input checked="" type="radio"/> 着信転送	
	<input type="radio"/> 疑似着信転送	
	契約者番号の転送先	03-6666-6666
	ポート1のダイヤルインの転送先	
	ポート2のダイヤルインの転送先	
	鳴り分け番号1の転送先	
	鳴り分け番号2の転送先	
	鳴り分け番号3の転送先	
	※グローバル着信ありの場合の転送先は契約者番号の転送先に設定してください	
	転送元トーキ	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし
	転送トーキ	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし
	※疑似着信転送を使用する場合、転送元／転送トーキの指定は無効になります	

3. [更新] ボタンをクリックします。

4. [設定反映] ボタンをクリックします。

設定した内容が有効になります。

💡 ヒント

転送元トーク / 転送トーク

かかってきた電話を他の番号に転送する際に流れるメッセージです。

- ・転送元トーク : 「電話が転送されます。」など
- ・転送トーク : 「ただいま電話を転送しますので、しばらくお待ちください。」など

フレックスホンのいろいろな機能を使う

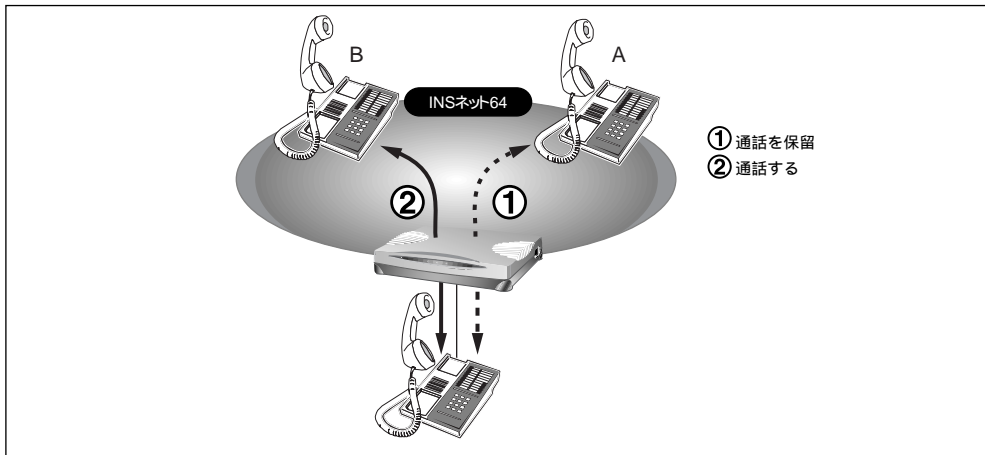
ここでは、フレックスホンの使い方を説明します。

INS キャッチホン

「INS キャッチホン」はNTT が提供するサービスです。利用の際はNTT との契約が必要です。通話中に電話を着信した場合、いったん通話を保留にしてあとからかけてきた相手と話すことができます。



「接続機器」で「電話」および「FAX (キャッチホン着信)」以外を指定した場合は、通信を妨げないようにするため、INS キャッチホンは利用できません。



1. 相手Aとの通話中に相手Bから電話がかかってくると、受話器から通話中着信音が流れてきます。



- ・通話中着信音を送出する時間を指定しておくことができます。「アナログ共通情報」(P.328)を参照してください。
- ・通話中着信音は、識別着信機能で相手に登録してあるリング音に対応して以下の表のようになります。
- ・通話中着信音は、「識別着信共通情報」の「識別リング音」の設定により異なります。「識別リング音」を「相手電話番号識別」に設定した場合、識別着信情報一覧で追加定義した相手からの着信は「ププッ」、それ以外の着信は「プッ」となります。「識別リング音」を「着信電話番号識別」に設定した場合、着信電話番号ごとに設定したリング音に対応して以下の表のようになります。

リング音設定	通話中着信
リング音1	ププッ
リング音2	プッ
リング音3	プププッ

2. フッキングをします。

相手Bと通話できます。相手Aとの通話は保留になります。

3. 相手Aと通話するときは、もう一度フッキングをします。

相手Bとの通話が保留になり、相手Aと通話ができます。



NTTと、三者通話または通信中転送の契約をしている場合は、この状態から以下の動作が可能です。

- ・2回フッキングをする（以降、ダブルフックとよびます）と、「自分+相手A+相手B」の三者で同時通話ができます（三者通話）。
- ・いったんフッキングして、すぐに受話器を置くと、通信中転送ができます（通信中転送）。

4. 通話中の相手との通話を終了するときは、受話器を置きます。

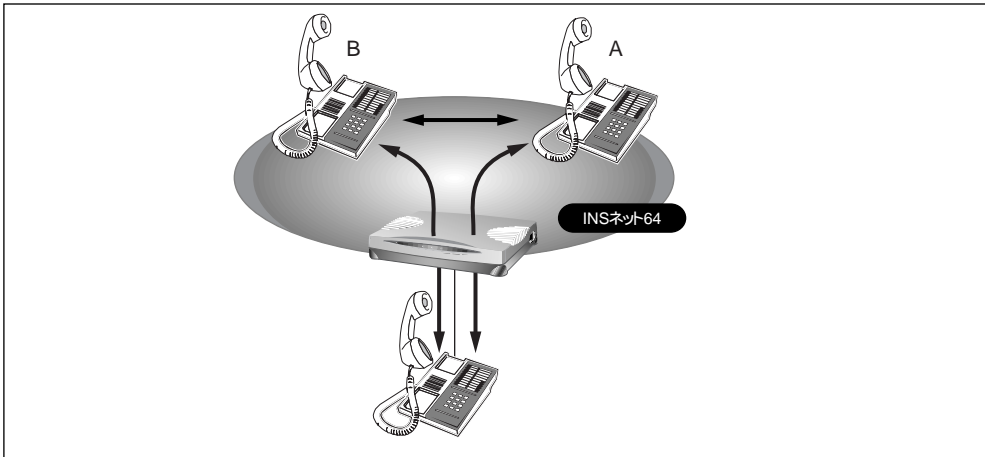
リング音が鳴ります。

5. 受話器を取ります。

保留にしていた相手と通話できます。

三者通話

「三者通話」はNTTが提供するサービスです。利用の際はNTTとの契約が必要です。

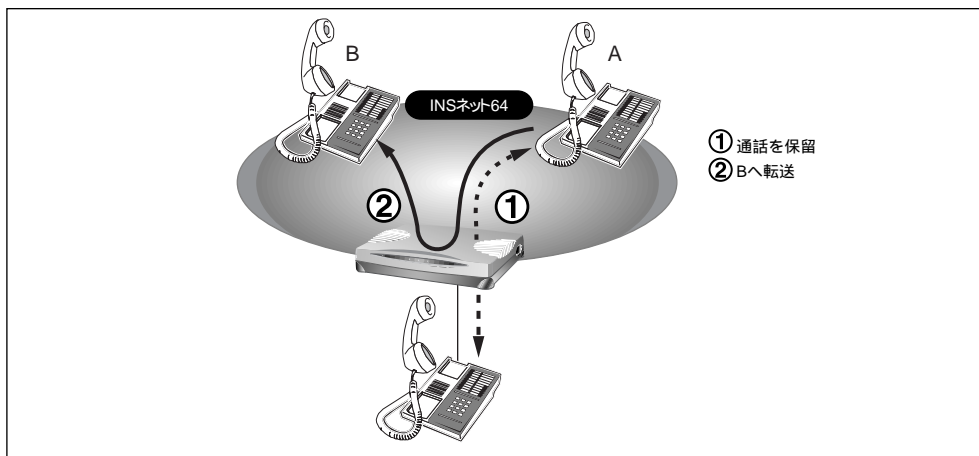


1. 相手Aとの通話中にフッキングをします。
通話が保留になり、第2ダイヤルトーン（プッププツという音）が聞こえてきます。
2. 相手Bへダイヤルします。
呼び出し音（プルルルという音）が聞こえます。相手Aには保留音が聞こえています。
3. 相手Bがでたら、通話を始めます。
この間、相手Aには保留音が聞こえています。
4. ダブルフックをします。
「自分+相手A+相手B」の三者で同時通話ができます（ミキシングモード）。
5. もう一度、ダブルフックをします。
相手Aとの通話は保留され、相手Bとの通話状態になります（切り替えモード）。
6. 通話中の相手との通話を終了するときは、受話器を置きます。
リング音が鳴ります。
7. 受話器を取ります。
保留中の相手と通話できます。

通信中転送

「通信中転送」はNTTが提供するサービスです。利用の際はNTTとの契約が必要です。

「通信中転送」機能を使って、通話中の電話を別の相手に転送できます。



1. 相手Aからの通話中にフッキングをします。
通話が保留になり、第2ダイヤルトーン（ブップブツという音）が聞こえてきます。
2. 相手Bへダイヤルします。
呼び出し音（プルルルという音）が聞こえます。相手Aには、保留音が聞こえています。
3. 相手Bがでたら、転送中の電話があることを伝えます。
この間、相手Aには保留音が聞こえています。
4. いったんフッキングをして、すぐに受話器を置きます。
相手Aと相手Bとで通話ができるようになります。

💡 ヒント

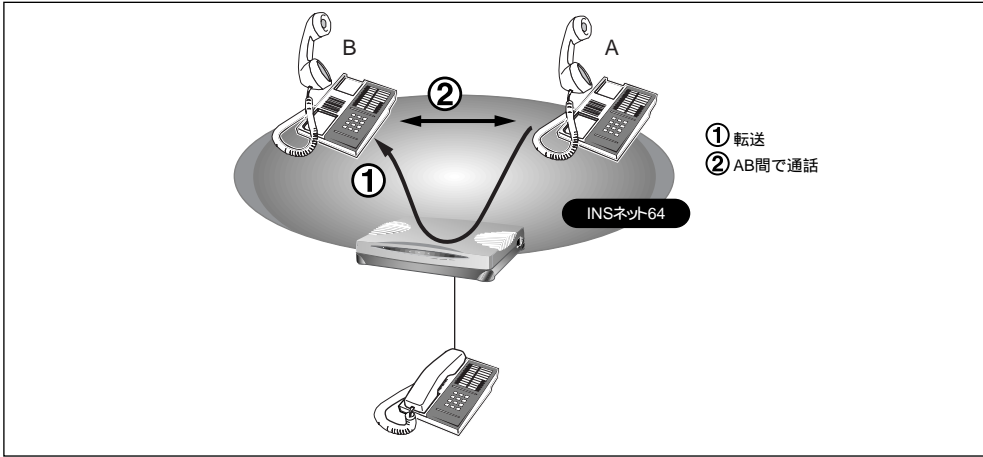
通信中転送したときの通話料はどのようになるの？

INS キャッチホンおよび三者通話から、通信中転送を行った場合、以下のようにそれぞれ発信者に課金されます。

	最初の通話 (相手A)	2番目の通話 (相手B)	通信中 転送	課金 対象
INS キャッチホンの場合	Aから 自分から	Bから Bから	できる できる	A、B 自分、B
三者通話の場合	Aから 自分から	自分から 自分から	できる できない	A、自分 -

着信転送

「着信転送」は、NTTが提供するサービスです。利用の際はNTTとの契約が必要です。かかってきた電話が、あらかじめ設定しておいた着信転送の条件に一致すると、本装置は電話を転送します。



- 本装置に電話機をつないでいなくても、着信転送を利用できます。
- 着信相手から本装置までの電話料金は着信相手に課金され、本装置から転送先までの電話料金は、本装置側に課金されます。

フレックスホン自動切り替え機能を使う

フレックスホンを利用して通話している場合、話している相手から電話を切断したときに、保留になっていた相手と自動的に（フッキング操作をしないで）通話できるようにする機能です。この機能は疑似キャッチホン、疑似三者通話、疑似通話中転送を使用している場合でも利用できます。

フレックスホン自動切り替え機能を設定する

ここでは、電話機をアナログポート1につないだ場合を例に説明します。

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログポート1情報」をクリックします。
「アナログポート1情報」ページが表示されます。
2. [網契約に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。
 - フレックスホン自動切替 使用する

[装置の動作に関連する設定項目]	
接続機器	<input checked="" type="radio"/> 電話 <input type="radio"/> FAX(キャッチホン着信) <input type="radio"/> モデム <input type="radio"/> FAX <input type="radio"/> FAX(無鳴動強制着信) <input type="radio"/> FAX(無鳴動識別着信) <input type="radio"/> なし
サブアドレス	<input type="text"/>
発信/着信選択	<input checked="" type="radio"/> 発着信 <input type="radio"/> 発信のみ <input type="radio"/> 着信のみ
受話音量	<input type="radio"/> 小 <input checked="" type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 大
リバースパルス送出	<input type="radio"/> 送出する <input checked="" type="radio"/> 送出しない
通話中着信音送出時間	0秒
フレックスホン自動切替	<input checked="" type="radio"/> 使用する <input type="radio"/> 使用しない

3. [更新] ボタンをクリックします。
4. [設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

INS ボイスワープを利用する

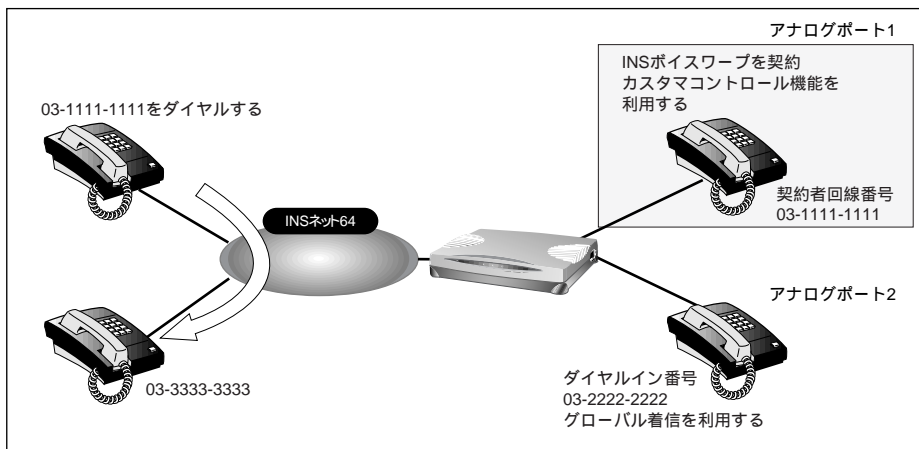
INS ボイスワープはNTTが提供する高機能な着信転送サービスです。利用の際はNTTとの契約が必要です。INS ボイスワープのカスタムコントロール機能 (INS ボイスワープを制御する手順) の詳細については、NTT支店または営業所にお問い合わせください。
ダイヤルインサービスを契約されている場合は、発信者番号通知の設定を通知するにしてください。

☛ 参照 「発信者番号通知の設定を変更する」(P.385)

また、INS ボイスワープを契約した番号 (契約者番号またはダイヤルイン番号) によって以下の設定が必要です。ダイヤルインサービスを契約していない場合は、設定の必要はありません。

INS ボイスワープを契約者番号 (アナログポート1) で契約した場合の設定

ここでは、以下の場合を例に説明します。



1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログ共通情報」をクリックします。「アナログ共通情報」ページが表示されます。
2. [網契約に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。
 - 電話番号 03-1111-1111 (契約者回線番号)

[網契約に関連する設定項目]		?
電話番号	<input type="text" value="03-1111-1111"/>	

3. [更新] ボタンをクリックします。
4. [アナログポート1情報へ>] ボタンをクリックします。
5. [網契約に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。

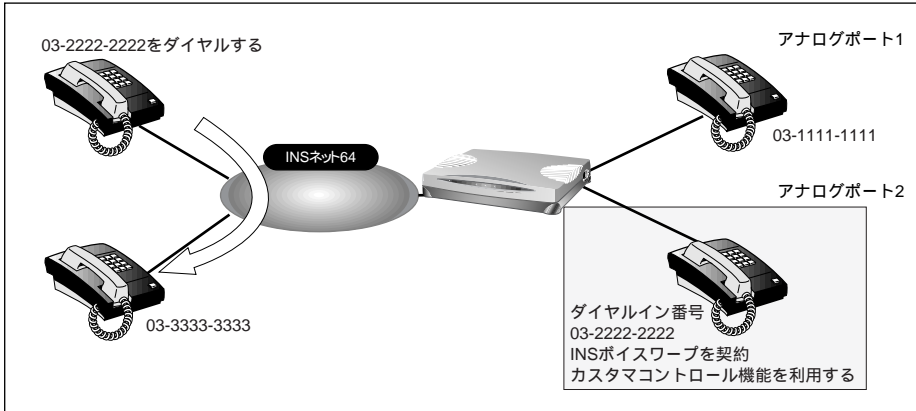
- 発信者番号通知 する

[網契約に関連する設定項目]	
ダイヤルイン番号	<input type="text"/>
グローバル着信	<input checked="" type="radio"/> する <input type="radio"/> しない
発信者番号通知	<input checked="" type="radio"/> する <input type="radio"/> しない <input type="radio"/> 網契約に従う
キャッチホン	<input type="radio"/> キャッチホン <input checked="" type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> 疑似キャッチホン

6. [更新] ボタンをクリックします。
7. [設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

INS ボイスワープをダイヤルイン番号 (アナログポート2) で契約した場合の設定

ここでは、以下の場合を例に説明します。



1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログポート2情報」をクリックします。
「アナログポート2情報」ページが表示されます。
2. [網契約に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。
 - ダイヤルイン番号 03-2222-2222 (ダイヤルイン番号)
 - 発信者番号通知 する

[網契約に関連する設定項目]	
ダイヤルイン番号	03-2222-2222
グローバル着信	<input checked="" type="radio"/> する <input type="radio"/> しない
発信者番号通知	<input checked="" type="radio"/> する <input type="radio"/> しない <input type="radio"/> 網契約に従う
キャッチホン	<input type="radio"/> キャッチホン <input checked="" type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> 疑似キャッチホン

3. [更新] ボタンをクリックします。
4. [設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

3. [更新] ボタンをクリックします。
4. [設定反映] ボタンをクリックします。

設定した内容が有効になります。

こんな事に気をつけて

- アナログポートに接続したアナログ機器に発信者番号を表示させるためには、以下の条件を満たす必要があります。
 - 本装置のアナログポートにナンバー・ディスプレイ対応のアナログ機器を接続し、アナログ機器のナンバー・ディスプレイ機能を「使用する」に設定する
 - アナログ機器を接続したアナログポートの「アナログポート情報」で「ナンバー・ディスプレイを使用する」に設定する
- お使いになるアナログ機器がナンバー・ディスプレイに対応していない場合や、ナンバー・ディスプレイを利用しない設定になっている場合は、誤鳴音や雑音（モデム信号）が聞こえるなど、正常に動作しない場合があります。
- 「アナログポート情報」で「通信前情報通知」を「ナンバー・ディスプレイを使用する」設定にした場合は、「アナログ共通情報」で「外線リング音」、「内線リング音」の設定を、「識別着信情報」で「識別リング音」の設定を「リング音1」に設定することをお勧めします。それ以外の設定（「リング音2」「リング音3」）を行った場合には、外線着信、内線着信および識別着信が正常に動作しないことがあります。
- 相手の方がサブアドレス番号を通知してきてもサブアドレス番号は表示されません。
- ナンバー・ディスプレイ対応アナログ機器の機種によっては、発信者番号が正常に表示されない場合があります。
- 無鳴動FAX受信機能を使用する場合、ナンバー・ディスプレイ機能は利用できません。



- 内線通話で着信した場合、呼び出し操作を行ったアナログポート番号「01」または「02」が表示されます。
- 内線転送操作からの着信時は、転送される相手の番号が表示されます。
- ナンバー・ディスプレイに対応していないアナログ機器を利用していても本装置のシステムログ情報には発信者番号が表示されます。
- ナンバー・ディスプレイ対応確認機種については、本装置のサポートページを参照してください。

発信者番号表示（キャッチホン・ディスプレイ）を使う

通話中に電話をかけてきた相手の方の電話番号（発信者番号）または発信者番号が通知されない理由を、アナログポートに接続したアナログ機器に表示することができます。

こんな事に気をつけて


- 利用の際はNTTが提供する「INSナンバー・ディスプレイ」の契約が必要です。ただし、相手の方がINSネット64から発信者番号を通知して電話をかけてきた場合は、未契約でも発信者番号をアナログ機器に表示することができます。
- キャッチホン・ディスプレイに対応していないアナログ機器をご使用の場合、発信者番号は表示されません。



- 相手の方がアナログ回線からかけてくる場合、発信者番号を通知させるにはNTTとの利用契約が必要です。
- 相手の方が電話番号を通知しない契約を結んでいる、または電話番号を通知しない操作をした場合などは、本装置に接続したアナログ機器に発信者番号は表示されません。発信者番号が通知されない主な理由は以下のとおりです。
 - 公衆電話からの電話のとき
 - かけてきた相手の方が電話番号を通知しない操作をしたとき、または通知しない契約になっているとき

キャッチホン・ディスプレイ機能を設定する


ここでは、電話機をアナログポート1につないだ場合を例に説明します。

 **補足** キャッチホン・ディスプレイ機能を使用するには、「キャッチホン」の設定も必要です。

☛ 参照 「疑似キャッチホンを使う」(P.362)
「発信者番号表示 (ナンバー・ディスプレイ) を使う」(P.380)

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログポート1情報」をクリックします。
「アナログポート1情報」ページが表示されます。
2. [装置の動作に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。
 - キャッチホン・ディスプレイ 使用する (モード1)

[装置の動作に関連する設定項目]	
接続機器	<input type="radio"/> 電話 <input type="radio"/> FAX(キャッチホン着信) <input type="radio"/> モデム <input type="radio"/> FAX <input type="radio"/> FAX(無鳴動強制着信) <input type="radio"/> FAX(無鳴動識別着信) <input type="radio"/> なし
サブアドレス	<input type="text"/>
発信/着信選択	<input type="radio"/> 発着信 <input type="radio"/> 発信のみ <input type="radio"/> 着信のみ
受話音量	<input type="radio"/> 小 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 大
リバースパルス送出	<input type="radio"/> 送出する <input type="radio"/> 送出しない
通話中着信音送出時間	0秒 <input type="text"/>
フレックスホン自動切替	<input type="radio"/> 使用する <input type="radio"/> 使用しない
通信前情報通知	<input type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> モデム信号での通知 <input checked="" type="checkbox"/> ナンバー・ディスプレイを使用する <input type="checkbox"/> モデムダイヤルラインを使用する 使用モード設定: <input type="text" value="モード1"/>
キャッチホン・ディスプレイ	<input type="text" value="使用する(モード1)"/>

 **補足** 使用する (モード1) を指定して正常に動作しない場合は、「使用する (モード2)」、「使用する (モード3)」、または「使用する (モード4)」を指定してください。

3. [更新] ボタンをクリックします。
4. [設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

こんな事に気をつけて

- アナログポートに接続したアナログ機器に発信者番号を表示させるためには、以下の条件を満たす必要があります。
 - 本装置のアナログポートにキャッチホン・ディスプレイ対応のアナログ機器を接続し、アナログ機器のキャッチホン・ディスプレイ機能を「使用する」に設定する
 - アナログ機器を接続したアナログポートの「アナログポート情報」で「キャッチホン・ディスプレイを使用する」に設定する
- お使いになるアナログ機器がキャッチホン・ディスプレイに対応していない場合や、キャッチホン・ディスプレイを利用しない設定になっている場合は、誤鳴音や雑音（モデム信号）が聞こえるなど、正常に動作しない場合があります。
- 相手の方がサブアドレス番号を通知してきてもサブアドレス番号は表示されません。
- キャッチホン・ディスプレイ対応アナログ機器の機種によっては、発信者番号が正常に表示されない場合があります。



- キャッチホン・ディスプレイに対応していないアナログ機器を利用していても本装置のシステムログ情報には発信者番号が表示されます。
- キャッチホン・ディスプレイ対応確認機種については、本装置のサポートページを参照してください。

発信者番号通知の設定を変更する

「発信者番号通知」はNTTが提供する基本サービスです。

発信するときに、発信者番号（契約者回線番号、ダイヤルイン番号、または鳴り分け番号）を通知するかどうかをNTTの契約と本装置の設定との組み合わせにより選ぶことができます。発信者番号を通知する契約をしている場合でも、アナログポート1と2をそれぞれ通知しないように設定できます。

網契約	本装置の設定（発信者番号通知）			相手ダイヤル番号前に付加	
	網契約に従う	する	しない	184を付加	186を付加
通常通知	通知する	通知する	通知しない	通知しない	通知する
通常非通知	通知しない				

発信者番号通知を設定する

ここでは、電話機をアナログポート1につないだ場合を例に説明します。

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログポート1情報」をクリックします。
「アナログポート1情報」ページが表示されます。
2. [網契約に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。
 - 発信者番号通知 「する」「しない」、または「網契約に従う」を選択する

[網契約に関連する設定項目]

ダイヤルイン番号

グローバル着信 する しない

発信者番号通知 する しない 網契約に従う

3. [更新] ボタンをクリックします。
4. [設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。



「アナログポート情報」でダイヤルイン番号に電話番号を設定し、発信者番号通知を行う設定をした場合、相手先にはダイヤルイン番号に設定した電話番号を通知します。鳴り分け番号を通知する場合、「アナログポート情報」のダイヤルイン番号に鳴り分け番号を設定してください。

発信者電話番号を選択する

外線発信時に、ダイヤルする相手電話番号の前にプレフィックス番号を付加することによって、相手に通知する発信者番号を選択することができます。

こんな事に気をつけて

- 利用する際は、NTTとの「ダイヤルインサービス」または「i・ナンバーサービス」の契約が必要です。
- この機能を利用する場合、アナログポート情報の「発信者番号通知」の設定は無効となり、必ず相手に発信者番号を通知します。

1. 受話器を上げ、ツーンという音が聞こえることを確認します。
2. プレフィックス番号に続けて相手電話番号をダイヤルします。
通知する発信者番号に対応するプレフィックス番号を付加します。

[ダイヤルインサービス契約（グローバル着信する）の場合]

通知する電話番号の種別	付加するプレフィックス番号
契約者回線番号	＊70
アナログポート1情報に設定したダイヤルイン番号	＊71
アナログポート2情報に設定したダイヤルイン番号	＊72

[i・ナンバー契約の場合]

通知する電話番号の種別	付加するプレフィックス番号
鳴り分け番号1（契約回線番号）	＊73
鳴り分け番号2（追加番号）	＊74
鳴り分け番号3（追加番号）	＊75

3. 呼び出し音が聞こえます。

無鳴動FAX受信機能を使う

無鳴動着信機能（FAXを受信したときに、着信音を鳴らさずに応答する機能）を持つFAXをアナログポートに接続した場合、着信音（リング音）を鳴らさずにFAXに着信させることができます。

こんな事に気をつけて

無鳴動FAX受信機能を使用する場合、ナンバー・ディスプレイ機能は利用できません。

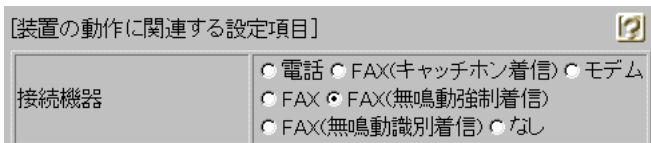
無鳴動FAX受信機能を設定する

ここでは、FAXをアナログポート1につないだ場合を例に説明します。

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログポート1情報」をクリックします。「アナログポート1情報」ページが表示されます。
2. [装置の動作に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。
 - 接続機器 「FAX（無鳴動強制着信）」または「FAX（無鳴動識別着信）」を選択する



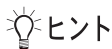
- 「FAX（無鳴動強制着信）」を指定すると、FAX受信時に無鳴動着信処理を行います。
- 「FAX（無鳴動識別着信）」を指定すると、相手からFAX通信を行うという情報（高位レイヤ整合性：G3FAX）が着信時に通知された場合だけ無鳴動着信処理を行います。それ以外の着信は、鳴動着信処理を行います。



3. [更新] ボタンをクリックします。
4. [設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

i・ナンバー着信機能を使う

i・ナンバーはNTTが提供するサービスで、ご使用になる場合は、契約が必要です。着信するアナログポートを特定できます。



i・ナンバー

NTTの「i・ナンバー」を契約すると、1つのINS ネット64に通常の電話番号に加えて、別の追加電話番号を2つまで割り当てることができます。それぞれの電話番号を使い分けることで、INS ネット64につないでいる機器を呼び分けることができます。

i・ナンバー着信機能を設定する

ここでは、以下のような場合を例に説明します。

- 契約者回線番号（鳴り分け番号1）で着信したときは両ポートに着信
- 追加番号（鳴り分け番号2）で着信したときはアナログポート1だけに着信
- 追加番号（鳴り分け番号3）で着信したときはアナログポート2だけに着信

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログ共通情報」をクリックします。

「アナログ共通情報」ページが表示されます。

2. [網契約に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。

- i・ナンバー 使用する
- [i・ナンバー情報1]
- 動作モード 両ポート着信
- [i・ナンバー情報2]
- 動作モード ポート1のみ着信
- [i・ナンバー情報3]
- 動作モード ポート2のみ着信

i・ナンバー	<input type="radio"/> 使用しない
	<input checked="" type="radio"/> 使用する
	[i・ナンバー情報1]
	鳴り分け番号1 <input type="text"/>
	動作モード <input type="text" value="両ポート着信"/>
	[i・ナンバー情報2]
	鳴り分け番号2 <input type="text"/>
	動作モード <input type="text" value="ポート1のみ着信"/>
	[i・ナンバー情報3]
鳴り分け番号3 <input type="text"/>	
動作モード <input type="text" value="ポート2のみ着信"/>	

3. [更新] ボタンをクリックします。
4. [設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

サブアドレスを設定する

サブアドレスを設定すると、着信するアナログポート（ポート1またはポート2）を特定できます。

サブアドレスは、発信側がINS ネット64 に加入している場合だけ利用できます。

外から電話をかけるとき、電話番号に続いて✳とサブアドレスをダイヤルすれば、そのサブアドレスを設定した方のアナログポートに着信させることができます。ただし、サブアドレスの番号は完全に一致しないと着信できません。

 相手電話番号 ✳ サブアドレス

例) 03-1111-1111 ✳ 123

こんな事に気をつけて

サブアドレスで着信ポートを特定する場合は、発信する相手側はサブアドレスを指定できるISDN機器（電話、PHS等）の必要があります。

サブアドレスを設定する

ここでは、電話機をアナログポート1につないだ場合を例に説明します。

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログポート1情報」をクリックします。「アナログポート1情報」ページが表示されます。
2. [装置の動作に関連する設定項目] でサブアドレスを指定します（19桁以内）。
 - サブアドレス 123

[装置の動作に関連する設定項目]	
接続機器	<input checked="" type="radio"/> 電話 <input type="radio"/> FAX(キャッチホン着信) <input type="radio"/> モデム <input type="radio"/> FAX <input type="radio"/> FAX(無鳴動強制着信) <input type="radio"/> FAX(無鳴動識別着信) <input type="radio"/> なし
サブアドレス	123

3. [更新] ボタンをクリックします。
4. [設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

ダイヤルイン/グローバル着信機能を使う

ダイヤルインはNTTが提供するサービスで、ご使用になる場合は、契約が必要です。着信するアナログポート（ポート1またはポート2）を特定できます。



ヒント

ダイヤルインサービスとグローバル着信

NTTの「ダイヤルインサービス」とは、1つのINS ネット64に通常の電話番号（以降、契約者回線番号と呼びます）に加えて、「ダイヤルイン番号」と呼ばれる番号を割り当てるサービスです。契約者回線番号とダイヤルイン番号を使い分けることで、INS ネット64につないでいる機器を呼び分けられるようになります。

一方「グローバル着信」とは、契約者回線番号で電話がかかってきたとき、どの電話番号で着信したかをINS ネット64につないでいる機器に通知しないようにするオプションです。つまり、呼び分けしないですべての電話機を鳴らすわけです。ちなみに「ダイヤルインサービス」を契約する際、「グローバル着信利用しない」という契約にすると、相手先がダイヤルした番号に対応する電話機だけを鳴らします。

ダイヤルイン番号を1つ追加して「グローバル着信利用しない」という契約にすると、ダイヤルイン番号を2つ追加した場合と同じ料金がかかります。かかってきた電話すべてについて呼び分けをするためです。ただし、本装置ではアナログポートごとに「グローバル着信を行う/行わない」の設定ができるので、「グローバル着信利用」と契約しておけば、ダイヤルイン番号1つ分の使用料で済みます。

INS ネット64の基本機能であるサブアドレスでも同じように呼び分けができます。ただし、相手がアナログ回線である場合は、サブアドレス情報のやり取りができないため、呼び分けできません。

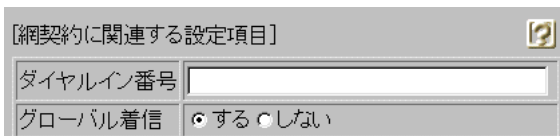
5

ダイヤルイン/グローバル着信機能を設定する

ここでは、契約者番号で着信したときは、アナログポート1だけに着信し、ダイヤルイン番号(03-2222-2222)で着信したときは、アナログポート2だけに着信する場合を例に説明します。

アナログポート情報1の設定

1. 詳細設定メニューの「アナログ設定」で「アナログポート1情報」をクリックします。
「アナログポート1情報」ページが表示されます。
2. [網契約に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。
 - ダイヤルイン番号 なにも設定しない
 - グローバル着信 する

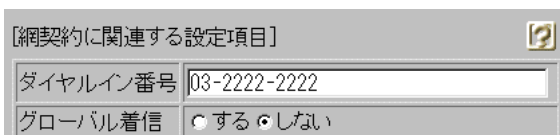


[網契約に関連する設定項目]	
ダイヤルイン番号	<input type="text"/>
グローバル着信	<input checked="" type="radio"/> する <input type="radio"/> しない

3. [更新] ボタンをクリックします。
4. [設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

アナログポート情報2の設定

1. 詳細設定メニューの「アナログ設定」で「アナログポート2情報」をクリックします。
「アナログポート2情報」ページが表示されます。
2. [網契約に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。
 - ダイヤルイン番号 03-2222-2222
 - グローバル着信 しない



[網契約に関連する設定項目]	
ダイヤルイン番号	<input type="text" value="03-2222-2222"/>
グローバル着信	<input type="radio"/> する <input checked="" type="radio"/> しない

3. [更新] ボタンをクリックします。
4. [設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

モデムダイヤルイン機能を使う

モデムダイヤルインは、電話とFAXなど機能ごとに個別の番号を持つことができます。着信したときに、モデム信号で自局電話番号または送出着信情報で設定した番号を電話機に通知します。

自局電話番号を送出する場合の設定例は（その1）で、送出着信情報で設定する任意の番号を送出する場合の設定例は（その2）で説明します。

こんな事に気をつけて

- 利用する際は、NTTとの「ダイヤルインサービス」または「i・ナンバーサービス」の契約が必要です。
- この機能を使用する場合、アナログダイヤルイン機能は利用できません。また、ご使用になる電話機がモデムダイヤルイン機能に対応している必要があります。（電話機の設定も必要です。電話機の取扱説明書をご覧ください。）

モデムダイヤルイン機能を設定する（その1：自局電話番号を送出する）

ここでは、以下の場合を例に説明します。

- アナログポート1にFAX機能付き電話をつなぐ
- i・ナンバー契約を行う
- 契約者番号（鳴り分け番号1：03-2222-2222）で着信した場合は、電話に着信する
（送出番号：03-2222-2222）
- 追加番号（鳴り分け番号2：03-3333-3333）で着信した場合は、FAXに着信する
（送出番号：03-3333-3333）

ここでは「i・ナンバー」契約をしている場合の設定例を説明していますが、「ダイヤルインサービス」を契約している場合は、「アナログダイヤルイン機能を使う」で説明している設定例を参考にして設定してください。

☛ 参照 「アナログダイヤルイン機能を使う」(P.399)

アナログ共通情報の設定

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログ共通情報」をクリックします。
「アナログ共通情報」ページが表示されます。

2. [網契約に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。

- i・ナンバー 使用する
- [i・ナンバー情報1]
- 鳴り分け番号1 03-2222-2222
- 動作モード ポート1のみ着信
- [i・ナンバー情報2]
- 鳴り分け番号2 03-3333-3333
- 動作モード ポート1のみ着信

i・ナンバー	<input type="radio"/> 使用しない <input checked="" type="radio"/> 使用する	
	[i・ナンバー情報1]	
	鳴り分け番号1	<input type="text" value="03-2222-2222"/>
	動作モード	<input type="text" value="ポート1のみ着信"/>
	[i・ナンバー情報2]	
	鳴り分け番号2	<input type="text" value="03-3333-3333"/>
	動作モード	<input type="text" value="ポート1のみ着信"/>
	[i・ナンバー情報3]	
	鳴り分け番号3	<input type="text"/>
	動作モード	<input type="text" value="両ポート着信"/>

3. [更新] ボタンをクリックします。

4. [設定反映] ボタンをクリックします。

設定した内容が有効になります。

アナログポート1情報の設定

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログポート1情報」をクリックします。
「アナログポート1情報」ページが表示されます。

2. [網契約に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。

- 通信前情報通知 モデム信号での通知
- モデムダイヤルインを使用する
- 使用モード設定 モード1

通信前情報通知

使用しない

モデム信号での通知

ナンバー・ディスプレイを使用する

モデムダイヤルインを使用する

 使用モード設定:

PB信号での通知
アナログダイヤルインを使用する

3. [更新] ボタンをクリックします。
4. [設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

モデムダイヤルイン機能を設定する（その2：任意の番号を送出する）

ここでは、以下のような場合を例に説明します。

- アナログポート1にFAX機能および子機付き電話をつなぐ
- i・ナンバー契約を行う
- 契約者番号（鳴り分け番号1）で着信した場合は、電話に着信する（送出番号：1111）
- 追加番号（鳴り分け番号2）で着信した場合は、FAXに着信する（送出番号：2222）
- 追加番号（鳴り分け番号3）で着信した場合は、子機に着信する（送出番号：3333）

ここでは「i・ナンバー」契約をしている場合の設定例を説明していますが、「ダイヤルインサービス」を契約している場合は、「アナログダイヤルイン機能を使う」で説明している設定例を参考にして設定してください。

☛ 参照 「アナログダイヤルイン機能を使う」(P.399)

アナログ共通情報の設定

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログ共通情報」をクリックします。

「アナログ共通情報」ページが表示されます。

2. [網契約に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。

- | | |
|---------------|----------|
| • i・ナンバー | 使用する |
| [i・ナンバー情報1] | |
| 動作モード | ポート1のみ着信 |
| [i・ナンバー情報2] | |
| 動作モード | ポート1のみ着信 |
| [i・ナンバー情報3] | |
| 動作モード | ポート1のみ着信 |

i・ナンバー	<input type="radio"/> 使用しない
	<input checked="" type="radio"/> 使用する
	[i・ナンバー情報1]
	鳴り分け番号1 <input type="text"/>
	動作モード <input type="text" value="ポート1のみ着信"/>
	[i・ナンバー情報2]
	鳴り分け番号2 <input type="text"/>
	動作モード <input type="text" value="ポート1のみ着信"/>
	[i・ナンバー情報3]
	鳴り分け番号3 <input type="text"/>
	動作モード <input type="text" value="ポート1のみ着信"/>

3. [更新] ボタンをクリックします。
4. [設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

アナログポート1情報の設定


1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログポート1情報」をクリックします。
「アナログポート1情報」ページが表示されます。
2. [インターネットに関連する設定項目] で以下の項目を指定します。
 - 通信前情報通知 モデム信号での通知
 - モデムダイヤルインを使用する
 - 使用モード設定 モード1

3. [更新] ボタンをクリックします。
4. [設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

送出着信番号情報の設定

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「送出着信番号情報」をクリックします。
「送出着信番号情報」ページが表示されます。
2. [送出着信番号情報] で以下の項目を指定します。
 - 番号送出方法設定 指定された番号を送出する
 - 送出番号設定

鳴り分け番号1での着信時	1111
鳴り分け番号2での着信時	2222
鳴り分け番号3での着信時	3333

[送出着信番号情報] 

番号送出方法設定	<input type="radio"/> 網から通知された番号を送出する <input checked="" type="radio"/> 指定された番号を送出する
送出番号設定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 契約者番号での着信時 <input style="width: 100%;" type="text"/> ・ ポート1のダイヤルイン番号での着信時 <input style="width: 100%;" type="text"/> ・ ポート2のダイヤルイン番号での着信時 <input style="width: 100%;" type="text"/> ・ 鳴り分け番号1での着信時 <input style="width: 100%; value: 1111;" type="text"/> ・ 鳴り分け番号2での着信時 <input style="width: 100%; value: 2222;" type="text"/> ・ 鳴り分け番号3での着信時 <input style="width: 100%; value: 3333;" type="text"/>

3. [更新] ボタンをクリックします。
4. [設定反映] ボタンをクリックします。
設定反映した内容が有効になります。

アナログダイヤルイン機能を使う

アナログダイヤルインは、電話とFAXなど機能ごとに個別の番号を持つことができます。着信したときに、PB信号で自局電話番号または送出着信情報で設定した番号を電話機に通知します。

自局電話番号を送出する場合の設定例は（その1）で、送出着信情報で設定する任意の番号を送出する場合の設定例は（その2）で説明します。

こんな事に気をつけて

- 利用する際は、NTTとの「ダイヤルインサービス」または「i・ナンバーサービス」の契約が必要です。
- この機能を使用する場合、ナンバー・ディスプレイおよびモデムダイヤルイン機能は利用できません。また、ご使用になる電話機がアナログダイヤルイン機能に対応している必要があります（電話機の設定も必要です。電話機の取扱説明書をご覧ください。）

アナログダイヤルイン機能を設定する（その1：自局電話番号を送出する）

ここでは、以下の場合を例に説明します。

- アナログポート1にFAX機能付き電話をつなぐ
- ダイヤルイン契約を「グローバル着信を利用する」で契約
- 契約者番号（03-2222-2222）で着信した場合は、電話に着信する（送出番号：2222）
- ダイヤルイン番号（03-2222-3333）で着信した場合は、FAXに着信する（送出番号：3333）

ここでは「ダイヤルインサービス」契約をしている場合の設定例を説明していますが、「i・ナンバー」を契約している場合は、「モデムダイヤルイン機能を使う」で説明している設定例を参考にして設定を行ってください。

☛ 参照 「モデムダイヤルイン機能を使う」(P.393)

アナログ共通情報の設定

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログ共通情報」をクリックします。

「アナログ共通情報」ページが表示されます。

2. [網契約に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。

- 電話番号 03-2222-2222

[網契約に関連する設定項目]		
電話番号	<input type="text" value="03-2222-2222"/>	

3. [更新] ボタンをクリックします。

4. [設定反映] ボタンをクリックします。

設定した内容が有効になります。

アナログポート1情報の設定**1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログポート1情報」をクリックします。**

「アナログポート1情報」ページが表示されます。

2. [網契約に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。

- ダイヤルイン番号 03-2222-3333

[網契約に関連する設定項目]	
ダイヤルイン番号	03-2222-3333
グローバル着信	<input checked="" type="radio"/> する <input type="radio"/> しない

[装置の動作に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。

- 通信前情報通知 PB 信号での通知

通信前情報通知	<input type="radio"/> 使用しない
	<input type="radio"/> モデム信号での通知
	<input type="checkbox"/> ナンバー・ディスプレイを使用する
	<input type="checkbox"/> モデムダイヤルインを使用する
	使用モード設定: <input type="text" value="モード1"/>
	<input checked="" type="radio"/> PB信号での通知
	アナログダイヤルインを使用する

3. [更新] ボタンをクリックします。**4. [設定反映] ボタンをクリックします。**

設定した内容が有効になります。

アナログダイヤルイン機能を設定する (その2: 任意の番号を送出する)

ここでは、以下の場合を例に説明します。

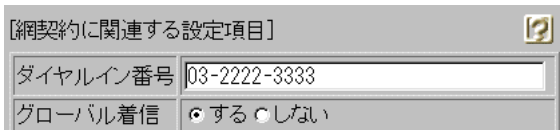
- アナログポート1にFAX機能付き電話をつなぐ
- ダイヤルイン契約を「グローバル着信を利用する」で契約
- 契約者番号で着信した場合は、電話に着信する (送出番号: 1111)
- ダイヤルイン番号 (03-2222-3333) で着信した場合は、FAXに着信する
(送出番号: 2222)

ここでは「ダイヤルインサービス」契約をしている場合の設定例を説明していますが、「i・ナンバー」を契約している場合は、「モデムダイヤルイン機能を使う」で説明している設定例を参考に、設定してください。

☛ 参照 「モデムダイヤルイン機能を使う」(P.393)

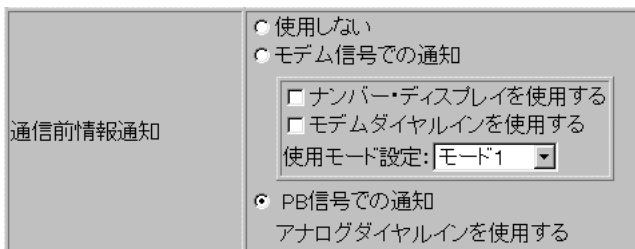
アナログポート1情報の設定

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログポート1情報」をクリックします。「アナログ共通情報」ページが表示されます。
2. [網契約に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。
 - ダイヤルイン番号 03-2222-3333



[装置の動作に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。

- 通信前情報通知 PB 信号での通知



3. [更新] ボタンをクリックします。
4. [設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

送出着信番号情報の設定

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「送出着信番号情報」をクリックします。
「送出着信番号情報」ページが表示されます。
2. [送出着信番号情報] で以下の項目を指定します。
 - 番号送出方法設定 指定された番号を送出する
 - 送出番号設定
 - 契約者回線番号での着信時 1111
 - ポート1ダイヤルインサービス番号での着信時 2222

[送出着信番号情報]	
番号送出方法設定	<input type="radio"/> 網から通知された番号を送出する <input checked="" type="radio"/> 指定された番号を送出する
送出番号設定	<ul style="list-style-type: none">• 契約者番号での着信時 <input style="width: 100px;" type="text" value="1111"/>• ポート1のダイヤルイン番号での着信時 <input style="width: 100px;" type="text" value="2222"/>• ポート2のダイヤルイン番号での着信時 <input style="width: 100px;" type="text"/>• 鳴り分け番号1での着信時 <input style="width: 100px;" type="text"/>• 鳴り分け番号2での着信時 <input style="width: 100px;" type="text"/>• 鳴り分け番号3での着信時 <input style="width: 100px;" type="text"/>

3. [更新] ボタンをクリックします。
4. [設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

リバースパルス送出機能を使う

リバースパルスは、外から電話がかかってきて、通話中に相手から電話を切った場合に、本装置がアナログポートに接続された機器に対して通話が終了したことを知らせるために送出する信号です。例えば、留守番電話で相手が切断したら同時にメッセージの録音を終了する機能を備えているときに有効です。

こんな事に気をつけて

接続したアナログ機器がリバースパルスを認識する機能を備えていない場合は、リバースパルスを送出する設定を行わないでください。誤動作する場合があります。

リバースパルス送出を設定する

ここでは、電話機をアナログポート1につないだ場合を例に説明します。

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログポート1情報」をクリックします。「アナログポート1情報」ページが表示されます。
2. [装置の動作に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。
 - リバースパルス送出 送出する

[装置の動作に関連する設定項目]	
接続機器	<input checked="" type="radio"/> 電話 <input type="radio"/> FAX(キャッチホン着信) <input type="radio"/> モデム <input type="radio"/> FAX <input type="radio"/> FAX(無鳴動強制着信) <input type="radio"/> FAX(無鳴動識別着信) <input type="radio"/> なし
サブアドレス	<input type="text"/>
発信/着信選択	<input checked="" type="radio"/> 発着信 <input type="radio"/> 発信のみ <input type="radio"/> 着信のみ
受話音量	<input type="radio"/> 小 <input checked="" type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 大
リバースパルス送出	<input checked="" type="radio"/> 送出する <input type="radio"/> 送出しない

3. [更新] ボタンをクリックします。
4. [設定反映] ボタンをクリックします。設定した内容が有効になります。

電話機を利用して設定を変更する

本装置のアナログポート（ポート1、ポート2）に接続したアナログ機器から設定できる項目を以下に示します。

- 時計の設定
- IPアドレスの設定
- アナログ機能の設定
 - スタンバイモードの設定
 - 着信転送の設定
 - アナログポートの接続機器の設定
 - ナンバー・ディスプレイの設定
 - i・ナンバーの設定
 - 鳴り分け番号の動作モードの設定
- 着信転送先の変更
- TELメールの設定
- メールチェックの実行
- メール着信の消去
- 留守状態の設定
- 留守モードの設定



スタンバイモードの設定は「スタンバイモードで使用する」(P.349)で説明していますが、ここで説明する方法でも設定が可能です。また、外線からも設定が可能です。

☛ 参照 「外線から設定を変更する（無課金）」(P.413)

こんな事に気をつけて

データ通信中に電話機を利用して設定を変更するとデータ通信が切断されます。
ただし、「時計の設定」、「メールチェックの実行」、「メール着信の消去」の場合は、切断されません。

時計を設定する

1. 受話器を上げ、ツーンという音が聞こえることを確認します。
2. ***0*820** + *****日付 + 時刻 (yymmddHHMMSS) をダイヤルします。
 - yy 西暦の下2桁を指定します。00 ~ 36の場合は、西暦2000年以降とみなします。
 - mm 月を01 ~ 12までの数字で指定します。
 - dd 日付を01 ~ 31までの数字で指定します。
 - HH 時間を00 ~ 23までの数字で指定します。
 - MM 分を00 ~ 59までの数字で指定します。
 - SS 秒を00 ~ 59までの数字で指定します。

例) 時刻を2001年1月1日午後2時30分00秒に設定する場合

***0*820*010101143000**をダイヤルします。

3. ピピッという音が2回とビジートーン（ブーブーという話中の音）が聞こえます。



正常に設定できなかった場合は、ビジートーン（ブーブーという話中の音）だけが聞こえます。

4. 受話器を置きます。

IPアドレスを設定する

本装置のアナログポート（ポート1、ポート2）に接続したアナログ機器からIPアドレスの設定を行います。専用線を使用する場合でも、この機能を利用することができます。

こんな事に気をつけて

- 本装置のIPアドレスの変更を行うとLAN間通信やISDNでのデータ通信ができなくなる場合があります。
- DHCPサーバ機能を利用する場合には、WWWブラウザから設定を変更してください。
- DHCPサーバ機能を利用している場合は、本装置のIPアドレスの変更は行わないようにしてください。IPアドレスを変更すると、DHCPサーバ機能は利用できません。

1. 受話器を上げ、ツーンという音が聞こえることを確認します。
2. ***0*810** + ***** IPアドレス + ネットマスク + ブロードキャストアドレスをダイヤルします。

IPアドレス、ネットマスク、ブロードキャストアドレスの数字の区切りに*****を使います。ブロードキャストアドレスは、指定するブロードキャストアドレスに対応する数値を以下の表から選択します。

選択値	ブロードキャストアドレスの設定
0	0.0.0.0
1	255.255.255.255
2	IPアドレス/ネットマスクから求められるネットワークアドレス+オール0
3	IPアドレス/ネットマスクから求められるネットワークアドレス+オール1

例) IPアドレスを「192.168.2.1」、ネットマスクを「24」、ブロードキャストアドレスを「3（ネットワークアドレス+オール1）」に設定する場合

***0*810*192*168*2*1*24*3** をダイヤルします。

3. ピピットという音が2回とビジートーン（プープープーという話中の音）が聞こえます。



正常に設定できなかった場合は、ビジートーン（プープープーという話中の音）だけが聞こえます。

4. 受話器を置きます。

アナログ機能を設定する

アナログポートに接続したアナログ機器から、以下のアナログ機能の設定を行えます。

- スタンバイモードの設定 (通常モード / スタンバイモード)
- 着信転送の設定 (しない / する / 疑似着信転送)
- 接続機器の設定 (なし / 電話 / モデム / FAX / FAX (無鳴動強制着信 / 無鳴動識別着信 / キャッチホン着信))
- ナンバー・ディスプレイの設定 (使用しない / 使用する (モード1) / 使用する (モード2))
- i・ナンバーの設定 (使用する / 使用しない)
- 鳴り分け番号の動作モードの設定 (ポート1のみ着信 / ポート2のみ着信 / 両ポート着信 / 着信拒否)

1. 受話器を上げ、ツーンという音が聞こえることを確認します。
2. ダイヤル操作で設定を変更します。

＊□＊ に続けて以下の操作番号をダイヤルします。

機能		操作番号
スタンバイモード	通常モード	8001
	スタンバイモード	8002
着信転送	しない	6001
	する	6002
	疑似着信転送	6003
接続機器の設定	なし	40P1
	電話	40P2
	モデム	40P3
	FAX	40P4
	FAX (無鳴動強制着信)	40P5
	FAX (無鳴動識別着信)	40P6
	FAX (キャッチホン着信)	40P7
ナンバー・ディスプレイ	使用しない	41P1
	使用する (モード1)	41P2
	使用する (モード2)	41P3
i・ナンバーの設定	使用しない	2201
	使用する	2202

鳴り分け番号の動作モード	ポート1のみ着信	22i1
	ポート2のみ着信	22i2
	両ポート着信	22i3
	着信拒否	22i4

Pには、設定を変更するアナログポートのポート番号（1または2）を入れます。

iには、鳴り分け番号1～3の番号（1、2、または3）を入れます。

例) ポート2の接続機器を「なし」にする場合

***0*4021** をダイヤルします。

3. ピピッという音とビジートーン（プープープーという話中の音）が聞こえます。



ピピッという音の鳴る回数は設定した機能によって異なります（操作で入力した最後の数字の回数です）。

例) 「接続機器」の設定を「なし」に設定した場合、ピピッ（1回）プープープー
正常に設定できなかった場合は、ビジートーン（プープープーという話中の音）だけが聞こえます。

4. 受話器を置きます。

着信転送先を設定する

アナログポートに接続したアナログ機器から、着信転送、および疑似着信転送の転送先を設定できます。

☛ 参照 「着信転送の設定を行う」(P.370)、「疑似着信転送を使う」(P.365)

1. 受話器を上げ、ツーンという音が聞こえることを確認します。
2. ダイヤル操作で設定を変更します。

0に続けて操作番号 + 転送先電話番号をダイヤルします。

機能	操作番号
契約者回線番号の転送先	610
ポート1のダイヤルインの転送先	611
ポート2のダイヤルインの転送先	612
鳴り分け番号1の転送先	613
鳴り分け番号2の転送先	614
鳴り分け番号3の転送先	615

例) 契約者回線番号を「03-1111-2222」に着信転送する設定を行う場合

***0*6100311112222**をダイヤルします。

3. ピピットという音とビジートーン (プープープーという話中の音) が聞こえます。



ピピットという音の鳴る回数は設定した機能によって異なります。

- 契約者回線番号の転送先を設定した場合 : 1回
- ポート1のダイヤルイン番号の転送先を設定した場合 : 2回
- ポート2のダイヤルイン番号の転送先を設定した場合 : 3回
- 鳴り分け番号1の転送先を設定した場合 : 4回
- 鳴り分け番号2の転送先を設定した場合 : 5回
- 鳴り分け番号3の転送先を設定した場合 : 6回

正常に設定できなかった場合は、ビジートーン (プープープーという話中の音) だけが聞こえます。

4. 受話器を置きます。

TELメールを設定する

アナログポートに接続したアナログ機器から、TELメールを設定できます。

☛ 参照 「TELメール機能」(P.542)

1. 受話器を上げ、ツーという音が聞こえることを確認します。
2. ダイヤル操作で設定を変更します。

0 に続けて操作番号をダイヤルします。

機能		操作番号
TELメール機能の設定	使用しない	2102
	使用する	2101

3. ピピットという音とビジートーン（プープープーという話中の音）が聞こえます。



ピピットという音の鳴る回数は設定した機能によって異なります（操作で入力した最後の数字の回数です）。

正常に設定できなかった場合は、ビジートーン（プープープーという話中の音）だけが聞こえます。

4. 受話器を置きます。

メールチェックを実行する

アナログポートに接続したアナログ機器から、メールチェックを実行できます。

☛ 参照 「メールチェック機能」(P.531)

1. 受話器を上げ、ツーという音が聞こえることを確認します。
2. ***0*8300** をダイヤルします。
3. ピピットという音が2回とビジートーン（プープープーという話中の音）が聞こえます。



正常に設定できなかった場合は、ビジートーン（プープープーという話中の音）だけが聞こえます。

4. 受話器を置きます。

メール着信を消去する

アナログポートに接続したアナログ機器から、メール着信を消去できます。

1. 受話器を上げ、ツーという音が聞こえることを確認します。
2. **✳0✳8500**をダイヤルします。
3. ピピッという音が2回とビジートーン（プープープーという話中の音）が聞こえます。



正常に設定できなかった場合は、ビジートーン（プープープーという話中の音）だけが聞こえます。

4. 受話器を置きます。

留守状態を設定する

アナログポートに接続したアナログ機器から、留守確認機能の留守状態を設定できます。

☛ 参照 「留守状態を確認する（無課金）」(P.419)

1. 受話器を上げ、ツーという音が聞こえることを確認します。
2. ダイヤル操作で設定を変更します。

✳0✳に続けて操作番号をダイヤルします。

機能		操作番号
留守状態の設定	在宅	2001
	留守	2002

3. ピピッという音とビジートーン（プープープーという話中の音）が聞こえます。



ピピッという音の鳴る回数は設定した機能によって異なります。（操作で入力した最後の数字の回数です）。

正常に設定できなかった場合は、ビジートーン（プープープーという話中の音）だけが聞こえます。

4. 受話器を置きます。

留守モードを設定する

アナログポートに接続したアナログ機器から、留守モードを設定できます。

☛ 参照 「留守モードの動作を設定する」(P.584)

1. 受話器を上げ、ツーンという音が聞こえることを確認します。
2. ダイヤル操作で設定を変更します。

☎☎☎に続けて操作番号をダイヤルします。

機能		操作番号
留守モードの設定	解除	8401
	実行	8402

3. ピピットという音とビジートーン（プープープーという話中の音）が聞こえます。



ピピットという音の鳴る回数は設定した機能によって異なります（操作で入力した最後の数字の回数です）。

正常に設定できなかった場合は、ビジートーン（プープープーという話中の音）だけが聞こえます。

4. 受話器を置きます。

外線から設定を変更する（無課金）

外線から設定できる項目を以下に示します。

- スタンバイモードの設定
- 着信転送の設定
- アナログポートの接続機器の設定
- ナンバー・ディスプレイの設定
- 着信転送先の設定
- TELメールの設定
- 留守状態の設定

こんな事に気をつけて

サブアドレスを使用するので、発信側はサブアドレスを指定できる ISDN 機器（電話、PHS 等）の必要があります。

アナログポート（内線）からも設定を変更できます。

■ 参照 内線から設定を変更する 「電話機を利用して設定を変更する」(P.404)

設定変更用暗証番号を設定する

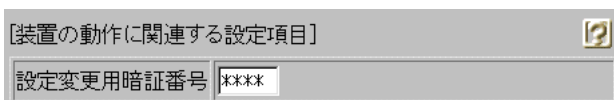
外線から設定を変更するには暗証番号が必要です（数字4桁）。

ここでは、設定変更用暗証番号を「5678」に設定する場合を例に説明します。

こんな事に気をつけて

設定変更用暗証番号は「アナログポート情報」の「サブアドレス」の設定と別のものを設定してください。

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログ共通情報」をクリックします。
「アナログ共通情報」ページが表示されます。
2. [装置の動作に関する設定項目] で以下の項目を指定します。
 - 設定変更用暗証番号 5678（任意の数字4桁を指定します）



3. [更新] ボタンをクリックします。
4. [設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。



外線からの設定変更をやめる場合は、設定変更用暗証番号を削除してください。

外線からアナログ機能の設定を変更する

外線の電話機から、以下のアナログ機能を設定できます。

- スタンバイモードの設定（通常モード / スタンバイモード）
- 着信転送の設定（しない / する / 疑似着信転送）
- 接続機器の設定（なし / 電話 / モデム / FAX / FAX（無鳴動強制着信 / 無鳴動識別着信 / キャッチホン着信））
- ナンバー・ディスプレイの設定（使用しない / 使用する（モード1） / 使用する（モード2））



すでにBチャンネルを2本使用しているときに、外線から設定を変更する場合、NTTの通信中着信サービスの契約が必要です。

1. 受話器を上げ、ツーンという音が聞こえることを確認します。
2. ダイヤル操作で設定を変更します。

契約者回線番号、ダイヤルイン番号、または鳴り分け番号に続けて、サブアドレスとして [設定変更用暗証番号（4桁）] + 操作番号をダイヤルします。

機能		操作番号
スタンバイモード	通常モード	8001
	スタンバイモード	8002
着信転送	しない	6001
	する	6002
	疑似着信転送	6003
接続機器の設定	なし	40P1
	電話	40P2
	モデム	40P3
	FAX	40P4
	FAX（無鳴動強制着信）	40P5
	FAX（無鳴動識別着信）	40P6
	FAX（キャッチホン着信）	40P7
ナンバー・ディスプレイ	使用しない	41P1
	使用する（モード1）	41P2
	使用する（モード2）	41P3

Pには、設定を変更するアナログポートのポート番号（1または2）を入れます。

3. 呼び出し音が聞こえます。



- ・設定変更用暗証番号を間違えた場合は、以下のメッセージが聞こえます。
「おかけになった電話番号にはあなたと通信できる機器が接続されていません」
- ・正常に設定できなかった場合は、ビジートーン（ブーブーブーという話中の音）が聞こえます。
- ・この場合、本装置側には着信音は鳴りません。

4. 受話器を置きます。

外線から着信転送先を設定する

外線の電話機から、着信転送および疑似着信転送の転送先を設定できます。

1. 受話器を上げ、ツーンという音が聞こえることを確認します。
2. ダイヤル操作で設定を変更します。

契約者回線番号、ダイヤルイン番号、または鳴り分け番号に続けて、サブアドレスとして [設定変更用暗証番号 (4桁)] + 操作番号 + 転送先電話番号をダイヤルします。

機能	操作番号
契約者回線番号の転送先	610
ポート1のダイヤルインの転送先	611
ポート2のダイヤルインの転送先	612
鳴り分け番号1の転送先	613
鳴り分け番号2の転送先	614
鳴り分け番号3の転送先	615

3. 呼び出し音が聞こえます。



- ・設定変更用暗証番号を間違えた場合は、以下のメッセージが聞こえます。
「おかけになった電話番号にはあなたと通信できる機器が接続されていません」
- ・正常に設定できなかった場合は、ビジートーン（ブーブーブーという話中の音）が聞こえます。
- ・この場合、本装置側には着信音は鳴りません。

4. 受話器を置きます。

外線から TEL メールを設定する

外線の電話機から、TEL メールを設定できます。

1. 受話器を上げ、ツーンという音が聞こえることを確認します。
2. ダイヤル操作で設定を変更します。

契約者回線番号、ダイヤルイン番号、または鳴り分け番号に続けて、サブアドレスとして [設定変更用暗証番号(4桁)] + 操作番号 + 転送先番号をダイヤルします。

機能		操作番号
TEL メール機能の設定	使用しない	2102
	使用する	2101

3. 呼び出し音が聞こえます。



- ・設定変更用暗証番号を間違えた場合は、以下のメッセージが聞こえます。
「おかけになった電話番号にはあなたと通信できる機器が接続されていません」
- ・正常に設定できなかった場合は、ビジートーン（ブーブーブーという話中の音）が聞こえます。
- ・この場合、本装置側には着信音は鳴りません。

4. 受話器を置きます。

外線から留守状態を設定する

外線の電話機から、留守確認機能の留守状態を設定できます。

☛ 参照 「留守状態を確認する（無課金）」(P.419)

1. 受話器を上げ、ツーンという音が聞こえることを確認します。
2. ダイヤル操作で設定を変更します。

契約者回線番号、ダイヤルイン番号、または鳴り分け番号に続けて、サブアドレスとして [設定変更用暗証番号(4桁)] + 操作番号をダイヤルします。

機能		操作番号
留守状態の設定	在宅	2001
	留守	2002

3. 呼び出し音が聞こえます。



- ・設定変更用暗証番号を間違えた場合は、以下のメッセージが聞こえます。
「おかけになった電話番号にはあなたと通信できる機器が接続されていません」
- ・正常に設定できなかった場合は、ビジートーン（プープープーという話中の音）が聞こえます。
- ・この場合、本装置側には着信音は鳴りません。

4. 受話器を置きます。

留守状態を確認する（無課金）

留守中に外線から着信した場合、留守番電話に切り替わることなく相手に留守中であることを知らせる機能です。留守の場合は、呼び出し音のあとにビジートーン（ブーブーブーという話中の音）が送出され、在宅の場合は、通常の呼び出し音が鳴ります。留守番電話に切り替わらないので、電話料金がかかりません。

留守確認用番号の設定をする

留守状態を確認するには、確認用番号が必要です（数字4桁）

こんな事に気をつけて

確認用番号は「アナログポート情報」の「サブアドレス」の設定と別のものを設定してください。

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログ共通情報」をクリックします。
「アナログ共通情報」ページが表示されます。
2. [装置の動作に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。
 - 留守確認用番号 7890（任意の数字4桁を指定します。）

[装置の動作に関連する設定項目]	
設定変更用暗証番号	<input type="text"/>
留守状態設定	<input type="radio"/> 在宅 <input checked="" type="radio"/> 留守
留守確認用番号	<input type="text" value="7890"/>

3. [更新] ボタンをクリックします。
4. [設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

「留守」または「在宅」の設定をする

外出時、帰宅時は以下のように「留守」、「在宅」を設定します。

1. 受話器を上げ、ツーという音が聞こえることを確認します。
2. ダイヤル操作で設定を変更します。

✳️□✳️ に続けて操作番号をダイヤルします。

機能		操作番号
留守状態の設定	在宅	2001
	留守	2002

3. ピピッという音とビジートーン（ブーブーという話中の音）が聞こえます。



ピピッという音の鳴る回数は設定した機能によって異なります（操作で入力した最後の数字の回数です）。

正常に設定できなかった場合は、ビジートーン（ブーブーという話中の音）だけが聞こえます。

4. 受話器を置きます。

留守状態の設定は、電話機からも設定できます。

☛ 参照 「留守状態を設定する」(P.411)、「外線から留守状態を設定する」(P.418)

外線から「留守」または「在宅」を確認する

1. 受話器を上げ、ツーという音が聞こえることを確認します。

2. 契約者回線番号、ダイヤルイン番号、または鳴り分け番号に続けて、サブアドレスとして [留守確認用番号(4桁)] をダイヤルします。

3. 呼び出し音が聞こえます。

[留守が設定されている場合]

呼び出し音の約3秒後にビジートーンが聞こえます。

[在宅が設定されている場合]

相手が受話器をあげると、通話状態になります。

4. 受話器を置きます。